



VOICE

読者のページ

2023年8月号(51巻8号)へ寄せられた
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

特集

肉眼病理学—臓器の形・色・硬さから学ぶ

- 病理検査に携わることはあまりありませんが、腫瘍部位の写真がよく撮れていて良かったです。内容も詳しく書かれており、鏡検像も一緒に載っていたため、大変参考になりました。 **ビューティ (新潟県)**
- 臓器別の病変好発部位や切り出しのポイントを学ぶことができ、病理検査だけでなくエコーを見る際にも役立つ記事でした。 **MT (滋賀県)**
- 自分が携わない分野の特集は難しいですが、とても勉強になるのでありがたいです。 **K.K (高知県)**
- 切り出し時のワンポイントアドバイスは実務に役立つアイデア集でした。 **雫 (山形県), MT (京都府)**

臨床検査 Q&A

結局のところ、採血のスピッツ分注 (注射器採血の場合、真空採血の場合)の 順番はどれが正解なのでしょうか？

- 採血時の分注順にはいろいろな見解があり、どの順が正しいのか疑問があったので、とても助かりました。 **K.K (高知県)**
- 新人看護師向けの採血指導の際、順番をどう教えるべきか悩んでいました。難しいことは説明していませんが、質問に回答できるようになり、とても有意義な記事でした。 **コウベノサウナー (兵庫県)**
- 採血管の順序に関しては、「組織液混入防止のため凝固用検体は血清用の後」と丸覚えしていたので、最新のルールを知ることができて良かったです。各採血法の長所と短所をよく理解し、臨機応変に対応したいです。 **MT (秋田県)**

基礎講座

交差適合試験用検体で溶血となった時の対応

- 日当直時にひどい溶血検体に当たった経験はまだありませんが、輸血検査は緊急対応のことも多いので、対応策をしっかり身につける必要があると感じました。溶血は採血困難時などに起こりうる事象なので、自施設の対応を再確認したいです。 **MT (秋田県)**
- 溶血検体が使用できないことは知っていましたが、検査原理によって溶血の影響や対処が異なることは、はじめて知りました。 **雫 (山形県)**
- 輸血検査に従事しています。業務に直結する知識の再点検ができました。 **UT (大阪府)**

MT Seminar

ペットから罹る感染症

- 自分の周りにもペットを飼っている人が多いので、とても興味深く読みました。 **ねこ (宮城県)**
- ここ数年、勤務地の近くでも SFTS (重症熱性血小板減少症候群) の発生が続いており、身近に潜む恐怖だと感じています。院内にポスターなどを掲示し注意喚起していますが、医療従事者としてもっと知識を深めたいと思います。 **HH (兵庫県)**
- 身近なペットに由来する感染症が、これほど多いことにびっくりしました。 **まっちゃん (和歌山県)**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」にてお寄せください。
ご投稿をお待ちしています！